
夜の雨と

koma - shun

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜の雨と

【Nコード】

N8488T

【作者名】

k o m a s h u n

【あらすじ】

「わたしはこの部屋に不釣り合いなのかもしれない」。

1年前、恋人との同棲のため買ったテレビが、今もまだ自分の部屋にある。そんな「今」に主人公（籾本絵里）は嘆く。

一人感傷にどっぷり浸かる絵里はベランダに出て・・・

(前書き)

どうも、k o m a - s h u nです。

本作で二作目となります。大変、短いですが 笑

前作「卯月の寒い深夜にて」も合わせてお読みいただけたら幸いです。

では「夜の雨と」をお楽しみください。

「夜の雨と」

簾本絵里がリモコンを操作すると、液晶テレビは「雨に濡れた絵里の住む街」を映し出した。

近所のディスカウントストアで購入した「これ」は、当初から、自分の部屋には少し不釣り合いだと絵里は感じていた。しかし、当時恋仲であった八重島裕樹の「どのみち、向こうに持っていくのだから」という言葉で結局、この液晶テレビを購入したのだ。

しかし、それから1年が過ぎようとしている現在も「これ」は絵里の部屋に存在している。存在し続けている。すると、まるで自分の方がこの部屋に居てはいけない存在ではないかと絵里は最近思うようになってきていた。「わたしがこの部屋には不釣り合いなのかもしれない」と。

「なんでなのよ」そう唇をきゅつと噛みながら、今にも消えてしまいそうな声でつぶやく絵里に、テレビは今晚の天気予報を答えた。どうやら、この雨は深夜から雪に変わるらしい。

唐突にリモコンをつかみ、テレビを消した絵里は立ち上がると、窓を開け、サンダルをつっかけベランダへと出た。

口元からは白い吐息が出て、肌には刺すような凍えた風があたった。けれども、実感がない。感触は確かにあるのにだ。

ふと、手で顔に触れると、絵里は自分の目から涙が流れているこ

とに気が付いた。するとその瞬間、自分の中で固まり、縮んで、塞がっていた「もの」が溢れてくるのが絵里は分かった。

絵里は声を出して泣きなくなった。鼻の奥にツンとくるものも感じた。絵里の口から小さな嗚咽が聞こえたとき、下の駐車場から、絵里を呼ぶ声が聞こえた。

絵里はあわてて、着ていたスウェットのくたびれた袖で顔を拭きながら、鼻をかみ、その声に「智子、遅いよ」と少ししゃがれた声で答えて、ベランダから出た。

部屋に戻った絵里はテーブルにあった冷めきったミルクを一口飲んでから、口も拭かず、急いで部屋を出た。

（後書き）

ご通読ありがとうございました。

感想、ご指摘がありましたら、ぜひよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8488t/>

夜の雨と

2011年10月9日06時37分発行